

愛知スキー協通信 No.365

発行：新日本スポーツ連盟 愛知スキー協会

2025年7月1日

〒460-0011 名古屋市中区大須 1-23-13 TEL.052-201-4801(Fax 共)

e-mail:aichiskikyokai@yahoo.co.jp

http://aichiskykyou.yukigesho.com/



編集：ぶなの木スキークラブ

スキーの楽しさ、すばらしさを広げよう！

愛知スキー協の第54期総会を 7月6日(日)午後1時～5時、労働会館2F 会議室にて開催します。議案を以下のように提案します。(理事長 浅井)

第54期(2025年7月～2026年6月)方針(案)

「要求に応えた活動と会員拡大で、

クラブと愛知スキー協を元気にしよう」＝メインテーマ

A「いきいき たのしいクラブをめざそう」

① クラブでは

- ・ クラブ単位の活動を充実させよう。
- ・ クラブは、自分がしたいことを実現する場です。提案し、役員会を開いて相談しよう。
- ・ ニュースを発行し、クラブ員や他のクラブに情報を広め交流しよう。
- ・ クラブの特長をいかし、充実させよう。
- ・ 指導員・山スキーリーダーが率先して自分のクラブを盛りあげよう。

② スキー協会である 自覚を高め合おう

- ・ スキー協だから、常に技術論と組織論の両立をします。
- ・ 楽しい行事、役に立つ行事を企画します。
- ・ 運営の中心になってクラブを充実・継続・拡大します。

③ 興味が持てる情報を、早く、正確に収集し、会員に提供します。

④ ファミリーで参加できる行事を企画します。

フェスティバル実行委員会で提案して、具体化します。

⑤ 楽しいクラブ行事を発信し、クラブ員を増やそう。クラブで目標をたててとり組もう。

B「スキーを続けるため各自のいろんな特技を生かしてスキー協を維持・発展させよう」

⑥ スキー協通信は、担当クラブが中心になって編集・印刷・発送に責任を持ちます。

- ・ 1月&6月 2月&7月 3月&8月 4月&9月 5月&10月 11月 12月 26年1月&6月
直滑降→ぶなの木→深雪→イエティ→個人会員→直滑降→ぶなの木→深雪→

26年2月&7月 26年3月&8月
イエティ→個人会員

- ・ 担当クラブにとって興味の持てる情報を編集します。

- ・ 理事会で記事内容を検討します。
- ⑦ スキー協のホームページ担当者を複数体制で充実させ、外部への発信力を強めます。
- ⑧ 理事や部長は、役員会・理事会に情報提供をします。
- ⑨ 高齢化に伴い、イメージ通りに体を動かせてなくなっている自覚を促し、オフトレを推奨します。
- ⑩ 愛知で出来る事は愛知で開催します。
- ⑪ 技術部・競技部・山スキー部の活動を活発化しスノースポーツ愛好者を増やします。
- ⑫ スノーボード部の組織を確立します。
 - ・ 愛知独自の技術講座(Zoom 講座で)の開催をします。

C「楽しく、早く、うまくなりたい」

- ⑬ 基礎スキー技術・山スキー技術・競技スキー技術・指導力 の向上をめざします。
初・中・上級指導員誕生をめざします。
STT を開催しスキー技術の向上をめざします。
ポール練習会を開催し指導を工夫してスキー技術の向上をめざします。

D「出来るだけ らくに、安全で たのしい環境 をつくろう」

- ⑭ 楽しく、元気がでる会議にする
 - ・ タイムスケジュールをはっきりさせ、時間を区切り、決めた時間内で決める習慣を養う。
 - ・ 議論項目は、一つで行う。仮でも一定の結論をだす。
 - ・ 異なる意見も受け止め、お互いの価値観やポジティブな意図を共有できるようにする。
 - ・ 議論は、視野を拡げる場と位置づける。正解を押し付ける場ではない。
- ⑮ クラブだけで出来ないことは、他のクラブと協力して実現しよう。
- ⑯ 愛知だけで出来ない事は、東海ブロックで実現しよう。
- ⑰ スノーフェスティバル実行委員会で各コースを充実させ、成功させ、クラブ員を増やそう。
- ⑱ 新日本スポーツ連盟の活動を学び、スポーツのひろばの購読をすすめます。
- ⑲ 全国スキー協議会、他のブロックとの協力共同の体制を強めます。
- ⑳ スキーメイトの購読を進めます。
- ㉑ 地球温暖化対策を取り組もう。このことについてクラブで話し合い実践につなげよう。
全国スキー協で作成したペナントと幟旗を活用しよう。
- ㉒ 平和であってこそスポーツを楽しめます。創意工夫した取組をすすめましょう。

ロープワークは難しかった



真剣に練習

ーぶなの木スキークラブ総会

6月15日(日)、あいち健康プラザ(東浦町)でぶなの木スキークラブ第32期総会を開きました。午前中はロープワークの練習でした。穴に落ちたときなどに自分を確保する時、またロープを結び合わせる時、カラビナに付ける時など、ロープの結び方を知っておくことは重要です。長谷川講師の指導で練習。前にやったことがあっても日頃使わないので忘れてしまっています。説明どおりにはなかなか出来ません。一応、必要な結び方を練習して、その後、屋外で実習しました。



ポーズをとって記念写真



エイトノット結び



午後は議事です。北海道など遠くの会員がいるのでハイブリッドで実施しました。現地出席者 29 名、Zoom13名、委任状34名で成立。藤田さんから平均年令、居住地別の会員数、28の行事についてのアンケート結果の説明。今年、怪我人があったのでその状況と防止策、来年の具体的な行事案、クラブのロゴ作成、来年度の役員、予算の提案がありました。提案された議案はすべて可決されました。ロゴ作成について賛成の意見が沢山ありました。最後に新クラブ員と参加者の自己紹介で交流しました。新会長は藤田信さんが選ばれました。(浅井 記)

初めてのモルック、楽しい

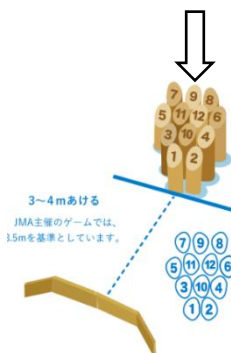
ー深雪スキークラブ総会

6月22日(日)、東海市しあわせ村で第47期総会を開きました。午前中はモルック。ゲームはプレーヤーがモルックと呼ばれる木製の棒を、3～4m先にあるスキttlと呼ばれる木製の12本のピンにボーリングゲームのように投げ倒し、ちょうど50点の得点を目標に競うスポーツです。最初の2～3回は何がなんだか分からないままやっていましたが、回をすすめるとちょっとコツが分かってきました。一番大事なものは得点を50点にすることで、オーバーすると25点にまで下がってそこからやり直しです。面白かった。

レストランで昼食後、昨年度の写真をプロジェクターで見て、その行事に参加できなかった人にも雰囲気を与えました。

19名の参加で1時半から議事に入り、方針案・予算などが提案され、指導員を増やそうという意見も出て活発な意見交換が出来ました。

12本のスキttl



投げ方も難しい



クラブと温暖化ストップの旗を掲げてパチリ

規約改正についての提案は一部可決で決着。次期役員は現在のまま、会長は児玉さんをお願い出来ました。議事が終了後、参加者の近況を話して交流しました。(浅井 記)

全国勤労者スキー協議会 第34回定期総会参加報告（深雪 S.C. 安藤）



6月8日（日）に全国スキー協議会定期総会があり、Zoom で参加しました。総会は2年に1回開かれるそうで、以前、一度理事になったばかりの時に、何も言わなくてもいいので、参加してくれと言われて参加したことがあります。しかし、その時、安藤さんは一度も発言しなかったと指摘されるという、いやな記憶があったので、総会への参加は遠慮しようと思っていました。

しかし皆さん忙しく、参加は難しいようでしたので、私が再度出るようになってしまいました。提案する事もなかったので今回も発言はしませんでした。参加する機会を頂いたのに何も発言をしなくて申し訳なかったと思います。次回2年後にはどなたが意見のある方が都合をつけて、ぜひ参加してもらいたいと思いました。

スキー協の YouTube やリーフレットを作って皆さんに宣伝できるようにしてもらいたい、障害者の方で参加してくれる人がいるので会費の減額など検討してもらいたい、大雪など不慮の事態が起きた時の対処方法などマニュアルを作ってもらいたい、バスの料金が値上がりしているので参加者一人につき一万円頂き、足りない分は会費から補填している、ジェンダー平等を方針に掲げながら女性の役員の比率が低い、など全国の参加者から様々な貴重な意見が出されました。愛知からは浅井理事長の発言もありました。これらの意見は今後の愛知スキー協の運営にも役立てることができると思います。

全役員と組織人員による都道府県からの代議員の合計定数は87人でした。当日は役員・代議員・部長の参加者予定者59名（+委任状7名）でしたが、実際の参加者53人（部長2人、役員17人、代議員33人、監査1人）でした。また、当日、欠席は6人でしたが総会は無事に成立しました。

新日本スポーツ連盟愛知県連盟第9回クラブ代表者会議 & スポーツにおけるジェンダー問題学習会 参加報告（S.C. 直滑降永田）

6月22日（日）、中区新栄にある民主会館にて、新日本スポーツ連盟愛知県連盟第9回クラブ代表者会議が行われました。前半のクラブ代表者会議では、代議員定数17名のところ、実出席10名、委任状7名で成立しました。全体の出席は役員と会長を含め17名でした。

詳細は後日発行予定の愛知県連盟機関紙「みんなのスポーツあいち」を参照願います。

学習会テーマ「ジェンダー格差とスポーツ」

講師：立命館大学 岡田桂教授（産業社会学部スポーツ社会専攻）

後半の学習会では、立命館大学の岡田桂教授が「ジェンダー格差とスポーツ」のテーマで講演しました。参加者は会場以外ではZoomで2名でした。

岡田教授は近代のスポーツはヨーロッパで生まれたスポーツが多く、もともと男性の“体力”が有利になるようにデザインされてきた文化であると説明。スポーツにおけるジェンダー平等とは「スポーツ」によって生み出される差異が、ジェンダーごとの身体パフォーマンス差の根拠にはなり得ないことを理解する必要があり、この問題はこれから議論が必要になるとのことでした。

（詳細は「みんなのスポーツあいち」に掲載します。また、岡田教授が作成した資料と学習会の動画・Zoomの映像がありますので、希望者は愛知スキー協のメールでお知らせください）

